

第37号

令和六年三月十九日発行
松山中央高校家庭クラブ

家庭クラブ活動に受け継がれるもの

教頭 菅 聖子



(おそらく)初めて家庭クラブ連盟のホームページを開いた。家庭クラブの歌が新しくなっていた。昔の歌のサビの部分「ホームメイキング ホームメイキング ホームホームクラブ」だけは、今でも何かの拍子に記憶の底から顔を出す。購読していた『F・H・J』という機関誌は今も続いているようだ。当時は、家庭科を履修しているのは女子生徒だけで、男子は体育の授業をしていたと思う。

さて、平成六年に家庭科の男女必修化が実施され、現在は男女にかかわらず家庭クラブに参加するという形になっているのだが、なんと松山中央高校では、男子が家庭科を履修していなかった創立初年度の昭和六十二年年度から、家庭クラブの活動に男子が参加していた。『創立十周年記念誌 創歴』を見ると、平成三年四月二十五日、第五回家庭クラブ総会が全校生徒参加のもとに実施され、「家庭クラブの四つの精神」創造・勤労・愛情・奉仕で、男女が共に協力して活動という気持ちが高まった一日であった」と記録されている。当時から、各種講習会、

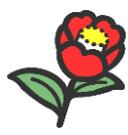
老人ホームや乳児院の訪問、聾学校との交流会などが実施されていたようだ。松山中央高校の教育目標は、「十年先を見据えて、常に一歩先んじて社会の変化に柔軟に対応し、積極的に生きる技能を身に付けるとともに、自分の周りのものを愛し、理性に従って生きることのできる思いやりのある豊かな心を身に付けてほしい」という願いのもと設定されているが、松山中央高校家庭クラブの精神もまた、同じ願いのもと、今も皆さん一人ひとりの心に宿っているだろうことを、とても誇りに思う。

阪神淡路大震災から二十九年、東日本大震災から十三年、令和六年は、能登半島地震の衝撃とともに始まった。命の大切さ、家族の存在のかけがえのなさを痛切に感じる。そして、衣・食・住それぞれを、ゼロからまかなっていくことの、なんと難しいことか。壊れたものから創り上げる。失われたものから生み出す。「自助・共助・公助」というが、簡単なことではない。それでも、どのような状況、段階であろうとも、私たちは共に生きなければならぬ

い。家庭クラブの活動を通して、私たちは「よく生きること」「共に生きること」を実践しているのだと思う。この活動を通して、どのようにすれば、衣食住においてより豊かに暮らせるか、様々な条件や考えを持つ人たちとパートナーシップを結べるかを学んでいるのだ。

高校生活は僅か三年間。三年間の家庭クラブの活動を通して、皆さんは、松山中央高校という「ホーム」の内と外で様々な経験をする機会が平等に与えられている。機会があるなら、声を出し、手を伸ばして、つかんでほしい。必ず皆さんの生きる力になるはずだ。

会長挨拶



二年 筒井 杏奈

今年度は、コロナウイルス感染症対策も緩和され、家庭クラブ活動も昨年度に比べ、活発に行うことができました。体育館で全校生徒が集まって行った家庭クラブ総会に始まり、特別教室のカーテンの洗濯、各学期や中央祭での講習会、乳児院へのプレゼント作り、

松山聾学校との交流会、干支のマスク作り・年賀状制作など、様々な活動をすることができました。

私は、昨年度も家庭クラブ役員として活動してきました。役員としての活動が楽しく、二年生になっても続け

たいと思ひ、役員に立候補しました。さらに、二年生では絶対に会長になると決意していたので、会長にも自分から立候補しました。会長の仕事は想像していたよりも大変なもので、特に行事の時、始まりや終わりの挨拶などを考えるのが私にとって一番大変なことでした。また、普段の家庭クラブ委員会や役員会では、オドオドしてしまい、つたない進行になってしまいました。しかし、大変なことだけでなく、役員や会長になったから経験できたことも多く、楽しい思い出を作ることができました。特に思い出に残っているのは、松山聾学校との交流会と三校役員交流会です。聾学校との交流会ではビーズアクセサリー作りやジェスチャーゲームをしました。アクセサリーは聾学校の生徒とペアになって作りました。アクセサリーを交換することにしたのですが、ペアになった男子生徒の好みを手話やジェスチャーで聞くのに、私はかなり苦戦してしまいました。三校役員交流会は、松山南高校と松山工業高校の家庭クラブ役員との料理講習会でした。最初は話もぎこちなかったですが、時間が経つにつれて会話も弾み、時間があっという間に過ぎてしまいました。

振り返ると、役員としての仕事も、委員会としての仕事もあつという間違ったように思います。日々周りの先生や友達に支えられ、最後まで頑張り続けることができました。私にとって家庭クラブ活動はかけがえのないものとなりました。今まで支えてくださった方々、本当にありがとうございます。

中予支部研究協議会

二年 木本 月菜

私は今年度、松山東高校で開かれた家庭クラブの中予支部研究協議会に松山中央高校の代表として、会長の筒井さんと一緒に参加させていただく機会を得ました。

中予支部研究協議会では、前半は各校の活動内容について報告を行いました。他校の取り組みを知り、良いと思った活動を取り入れたり、参考にしたりすることで、よりよい活動を行うことができると思います。しっかりと意見交換をすることができてよかったです。

後半は、日常生活で使える簡単な手話を、講師の先生に教えていただきました。「おはよう」や「ありがとう」などの挨拶や、自分の名前や好きなものの伝え方など自己紹介の手話を教わりました。私は初めて手話を体験したからか、とても難しく感じました。ろう者の方々からすると日常会話にも満たないものでしたが、少しずつでも覚えていくことで手話を通じてコミュニケーションをとれるようになると思うと感慨深いものがありました。

たった数時間の行事でしたが、たくさん意見を交換し、知らなかったことを知ることができ、視野が広がったような気がします。これからも積極的に新しいことを知ろうとし、自らの視野を広げていきたいです。



松山聾学校との交流会

一年 河合 堆希

私が家庭クラブ役員になって初めての他校との交流会は、松山聾学校との交流会でした。学校の名前を聞いたとき、私はどのような学校なのか分かりませんでした。聾学校とは耳の不自由な人たちが、手話などを通じて学ぶ学校です。

私たちが聾学校へ着くと、生徒の皆さんが温かく出迎えてくれたことが今でも印象に残っています。私たちはこの交流会の自己紹介を手話ですることにし、事前に手話の辞書などで調べながら練習をしました。でも、当日はきちんと伝わっているのか不安でしたが、ある程度は伝わったようで安心しました。その後の交流でも積極的

に手話を使ってコミュニケーションをとるようにしました。また、ジェスチャーゲームなどもして、とても楽しく交流することができました。



この交流会をおして、コミュニケーションとは言葉だけでなく、相手に伝わってほしいという気持ちが大切だと感じました。この経験は、私にとってもかけがえのないものとなりました。

三校役員交流会

一年 野田 美優香

家庭クラブ役員になって初めての他校の役員との交流で、とても緊張しました。交流会は、松山南高校と松山工業高校とで行い、とても充実した活動ができました。

はじめに、それぞれの学校が自分たちの行っている活動について紹介しました。共通している活動もあれば、学校独自の活動もあり、とても興味深かったです。中央高校の発表は先輩がしてくれたので、私は発表することは

なかったのですが、二年生になったらこういう感じで紹介をするんだと勉強になりました。

次に、グループに分かれて「しようゆもち」を作りました。自分たちでしようゆもちを作れると思っていなかったのですが、とても楽しみにしていました。各校一人ずつの三人グループでの活動は最初こそ緊張しましたが、他校の先輩方が優しく、楽しく活動ができました。しようゆもち作りは砂糖の温度が大事だと思いました。一種類目の黄色の色を付けたしようゆもちは、とても上手に作れましたが、二種類目に作ったしようゆ色のもちが少し失敗して、見た目が唐揚げのようになってしまいました。でも、食べてみるとおいしくできていたのでよかったです。三種類目はあんこを入れました。あんこ入りは初めて食べたのですが、とてもおいしかったです。

初めは家庭クラブ委員になるつもりもなかったのですが、委員会に入り役員になって、様々な経験ができ、自分の成長につながっていると思います。



家庭クラブ委員になり、役員として活動できて、とてもよかったです。

年賀状・干支のマスコットのプレゼント

一年 山下 力也

家庭クラブでは毎年、特別養護老人ホーム「和光苑」の皆さんへ年賀状と干支のマスコットを製作しプレゼントしています。今年度も、みんなが家庭科の授業の時間を利用して、楽しく作ることができました。

年賀状では辰年ということで、各々がインターネットで調べたり、自分で思い描いたりしながら、「龍」を描いていました。また、お正月にちなんだ鏡餅を描いている人もいて、個性豊かな年賀状が出来上がっていました。私自身は「龍」を描きました。高校生になつてから、絵を描くことがあまりなかったもので、とても楽しかったです。

干支のマスコット作りは、少人数で行いました。クラスの中から何人か自主的に干支のマスコット作りを選び、製作しました。出来上がったものは、



とてもきれいな仕上がりで、私は完成したのを見るとき、「喜んでくれるだろうな」と強く思いました。

私たち家庭クラブ役員が年賀状と干支のマスコットを和光苑に持っていくと、二人の入所者の方が出迎えてくださいました。年賀状と干支のマスコットを手渡すと、とても喜んでくださり、作つてよかったなど感じました。その後、たくさんのお話や人生のアドバイスをしてくださって勉強になりました。お聞きしたお話をこれからの生活に生かしていきたいです。



中央祭

一年 趙 梨良

今年度の中央祭での講習会は、ビーズ入りのミサンガ作りでした。たくさんの方が友達や家族を連れて作りに来てくれました。各テーブルに委員が付き、作り方を教えました。器用な人も、そうでない人もいましたが、最後まで諦めずに取り組んでいた姿が、と

ても印象的でした。糸やビーズの色や種類は多く、参加者それぞれが選んだ組み合わせはどれも違って、素敵なミサンガを作っていました。作っている様子を見ると、戸惑う友達を助けている姿が各テーブルで見られて、うれしい気持ちになりました。私は役員なので教える側でしたが、友達を誘って作りに来たいなと思いました。

中央高校に入学して初めての中央祭で、初めてのミサンガの講習会でしたが、とても楽しかったです。これから入学する皆さんにも、ぜひ中央祭や各学期の講習会に参加してみたいと思います。よい思い出作りになると思います。



子ども食堂のボランティア

二年 中矢 恋奈

お弁当の材料に、様々な企業さんが食品を提供してくれたり、ボランティアスタッフがの友達くれた野菜が使われていたりしているのを間近で見ると、たくさんの方の優しさが集まって活動が成り立っていることを実感することができました。スタッフの方も、

ボランティアの方も、子ども食堂に来てくれた方々も、みんなが優しく、そのような温かな空間で自分も活動ができていくことがとてもうれしかったです。必ずまた参加したいと思いません。

一年 菊池 眞衣

このようなボランティア活動に参加したのは初めてだったけれど、自分たちで子どもたち用の弁当を調理したり、賞味期限が近いなどで提供された食品を仕分けたりすることで、食品ロスなどの問題に直接貢献できていることが実感できました。人数が少なく、いろいろな役割に移動しながらで忙しかったけれど、その分終わった後の達成感が大きく、充実した一日になりました。

一年 室地 まりあ

約八十人分の昼食の調理は経験がなく、少し大変でしたが、一緒に調理をした方々がとても温かく、また自分のしていることが誰かのためになっていると思うとやりがいがあったり、楽しくて、時間が過ぎるのがあっという間でした。私たちが作ったお弁当を、子どもや保護者の方が持って帰るところを見ると、心が温まり、ボランティア活動に参加してよかったと感じました。今後も様々な機会にボランティア活動を行うことができると思います。

講習会

二年 松野 加奈

各学期に行われる講習会では、参加者と交流しながら、新しいことに挑戦したり、何かを作ったりすることの楽しさを学ぶことができます。

今年度の講習会はお菓子作りを行いました。一学期は「ガトーショコラ作り」を企画し、たくさんの方が参加してくれました。班のみんなが協力して、それぞれが役割を持ち、おいしいガトーショコラが作れるように頑張りました。協力していく中で、学年を超えて交流することができ、新たな友情の輪が広がりました。

二学期には「りんごのフラン作り」を企画しました。タルト生地を作るところから始め、難しいところも協力し

て、最後まで楽しく作業することができました。時間はかかりましたが、新しいことに挑戦することの楽しさを知る機会になりました。

三学期の「チョコレートカップケーキ作り」は、作ったチョコレートケーキにバタークリームでデコレーションをしました。バタークリームを絞り出し、アラザンやシユガーフレイクで飾ると、とてもかわいく仕上がりました。バタークリームは生クリームと違って、持ち運んでも崩れにくいので、プレゼントに向いていることが分かりました。

中央祭の「ミサンガ作り」の講習会も、たくさん生徒や保護者の方々に参加していただき、様々な人と交流することができました。それぞれが自分だけのミサンガ作りを体験し、絆の深まる楽しい時間を過ごすことができました。形に残る、よい思い出になったと思います。講習会をとおして、たく

さんの人と関わることができ、よい経験になりました。

ガトーショコラ作り

一年 若松 希心

お菓子を作ることが好きで、今回の活動に参加しました。ガトーショコラ作りは初めての体験で、卵黄の混ぜ具合や、メレンゲの作り方など、自分では少し難しいと思っていた作業も、職員と協力することでテキパキと進めることができました。また、先生の御指導がとても分かりやすかったので、作るときの不安がなく、とても安心感がありました。今度は家でも家族に作ることがさらに好きになったので、他のお菓子作りにも挑戦してみたいです。

りんごのフラン作り

一年 清家 大輝

友達に誘われて参加した。普段まったく調理をしないので、友達に迷惑をかけたが、上手くできあがったのでよかった。この成功を機に、久しぶりに母の夕食作りを手伝おうかなと思っただけである。そして「りんごのフラン」の味は、私の想像をはるかに超えておいしかった。りんごがとても柔らかく、生地とてもマッチしていた。シナモンも入れて正解だった。次回も友達と一緒に参加したい。

※「りんごのフラン」……タルト生地を敷いた型に、煮たりんごとカスタードソースを流し入れて焼いたケーキ。

月	日	活動内容
4	中旬 14 20	家庭クラブガイダンス 委員会・役員会 家庭クラブ総会
5	8~15 17~ 20 22・31	家庭クラブ週間① カーテンの洗濯・修繕 子ども食堂ボランティア① 講習会①「ガトーショコラ作り」
6	7 ~12	中予支部研究協議会(松山東高校) カーテンの洗濯・修繕
7	15 19	子ども食堂ボランティア② 松山聾学校との交流会(松山聾学校)
8	休業中 9	ホームプロジェクト実施 第70回愛媛県高等学校家庭クラブ 研究発表大会(中止)
9	6 下旬 28	運動会受付接待 乳児院の運動会のメダル作り 中央祭「ミサンガ作り講習会」
10	3	乳児院の運動会の飾り作り
11	上旬 上旬~ 11 18	愛媛県ホームプロジェクトコンクール応募 干支のマスコット製作の準備 三校役員交流会(松山工業高校) 子ども食堂ボランティア③
12	1 中旬 16 27	講習会②「りんごのフラン作り」 干支のマスコット製作・年賀状制作 子ども食堂ボランティア参加④ 老人ホーム「和光苑」訪問
1	上旬 22~31	新聞「つばきの」編集開始 家庭クラブ週間②
2	2 16~19	講習会③「チョコレートカップケーキ(バタークリームデコレーション)作り」 ペーパーホルダーの洗濯・修繕
3	上旬 16 19 19	新聞「つばきの」編集・校正 子ども食堂ボランティア参加⑤ 新聞「つばきの」37号発行 テーブルマナー講習会
年間の活動		家庭クラブ委員会・役員会 書き損じハガキ・古切手・使用済み プリンタインクカートリッジの回収
今年度の「乳児院訪問」「石井児童クラブ半日ボランティア」は中止(計画なし)になりました。		

令和5年度役員紹介



前 列 右 か ら	書 記	会 長	副 会 長	後 列 右 か ら	会 計	監 査	監 査	監 査
松 野	加 奈	筒 井	木 本	山 下	野 田	趙	野 田	山 下
杏 奈	月 菜	杏 奈	月 菜	力 也	美 優	梨 良	美 優	力 也
						河 合	野 田	山 下
						堆 希	美 優	力 也